

<原著>

ロールシャッハ・テストの父親・母親図版解釈の再検討

三浦克奈雄<sup>1)</sup>・柴原 直樹<sup>2)</sup>

Re-evaluation of the Farther/ Mother Interpretation of Rorschach Cards

Katsunao MIURA, Naoki SHIBAHARA

This research re-evaluates the validity of hypothesis about the interpretation of Rorschach father/ mother cards. Ninety six university students participated in the research. The results showed that Card IV is more often selected as the farther card, regardless of the participant's gender, whereas Card VII is not more chosen as the mother cards, and that the Color Cards are usually selected as the mother cards. The results do not support the validity of the hypothesis about the mother card interpretation.

Key words : Rorschach test, farther/mother cards, re-evaluation  
ロールシャッハ・テスト 父親・母親図版 再検討

はじめに

私たちは外界の現象を眼という器官を通して見ている。外界からの入力刺激は水晶体を通して眼底にある網膜にその像を結ぶが、この像は2次元である。しかし、私たちの脳はこの2次元の網膜像から奥行きのある3次元空間を創り上げている（道又、北崎、大久保ら、2011<sup>1)</sup> 参照）。また、これまで経験を通して蓄積された知識が対象の知覚に影響するだけでなく、対象がどのような文脈で提示されるかによって知覚内容が変わってしまう。さらに、「幽霊の正体見たり枯れ尾花」のごとく、恐怖という情動が枯れ尾花から幽霊の知覚を生じさせるように、個人の情動や欲求あるいは期待が知覚過程に影響を及ぼす場合もある。つまり、視覚入力刺激の情報処理は

ボトムアップとトップダウンの相互作用によって成立しているのである。

では、無作為的絵柄のような曖昧で形の定まらない不確定性の大きい刺激に対して、私たちはそこに何を見るのであろうか。そこで生じた知覚経験は意味のないランダムな図柄なのか、あるいは私たちの無意識の欲求や期待を言語化したものが知覚経験の内容として現れるのであろうか。

ロールシャッハ・テストの父親・母親図版解釈仮説

Bochner and Halpern (1945)<sup>2)</sup> は、彼らの著書の中でロールシャッハ・テストの図版IVが父親的、VIIが母親的な特徴を有していることを述べている。その後、図版IVが「父親」、図版VIIが「母親」のイメージを象徴的あるいは

1) 神戸医療福祉大学 社会福祉学部 社会福祉学科、柴原ゼミ生  
(Kobe University of Welfare) 〒679-2217 兵庫県神崎郡福崎町高岡1966-5

2) 神戸医療福祉大学 (Kobe University of Welfare) 〒679-2217 兵庫県神崎郡福崎町高岡1966-5

は直接的に引き起こすという考えが1つに仮説として提示され、この仮説を検証するために多くの研究がなされてきた。

例えば、大学生を対象に①ロールシャッハ・テストを実施した後 (Meer & Singer, 1950<sup>3)</sup>; 村上, 1957<sup>4)</sup>)、あるいは②ロールシャッハ・テストを実施せずに (Rosen, 1951)<sup>5)</sup>、ロールシャッハの10枚の図版から父親・母親イメージ図版を選択させたところ、父親イメージ図版として図版Ⅳが選ばれ、母親イメージ図版として図版Ⅶが選ばれる傾向があることが報告されている。

この仮説の背景には、図版Ⅳの持つ特徴が「男らしい」、「威圧的」、「厳格」、「おそろしい」などの印象を、図版Ⅶの持つ特徴が「明るい」、「柔らかい」といった印象を与えるため、前者は権威的存在としての男性あるいは父親のイメージを、後者は「やさしい」女性あるいは母親のイメージを喚起するといった点の存在がある (坪井、松本、鈴木ら、2012<sup>6)</sup> 参照)。

しかし、この父親・母親図版解釈仮説の妥当性が一貫して報告されているわけではない (Charen, 1957<sup>7)</sup>; Tharkur & Tharkur, 1971<sup>8)</sup> 参照)。また、「一般的な」父親・母親イメージとして図版を選択させる場合と、「私の」父親・母親イメージとして図版を選択させる場合とでは、前者の方が仮説を支持する傾向にあることなども示されている (田中, 1960<sup>9)</sup>, 1984<sup>10)</sup>)。さらに、Cole, Williams, and Moore (1969)<sup>11)</sup> は全ての無作為的絵柄を大家族と仮定し、父親および母親的人物を連想させるという検査設定により父親・母親図版解釈仮説の検討を行った。その結果、父親イメージとして図版Ⅳが最も選択され、母親イメージとして図版Ⅷ、次いで、図版Ⅹが選択されることを明らかにした。

その後の研究では、父親図版仮説を支持する報告はあるものの、母親図版仮説につ

いては否定的な結果が得られている (田中, 1984<sup>10)</sup>)。例えば、図版をプロジェクターにより提示し父親・母親のイメージを評定させる図版評定法を用いた福井、三宅、岡崎ら (2008)<sup>12)</sup> の調査から、図版Ⅳは父親をイメージさせるが、図版Ⅶが母親をイメージする図版であるという仮説には妥当性がないことが示された。また、福井、三宅、岡崎ら (2011)<sup>13)</sup> は、ロールシャッハ・テストを実施し、限界検査段階 (testing the limits) で10枚の図版から父親・母親をイメージさせる図版を直接選択させる方法を取った。その結果、図版Ⅳは父親を象徴する図版であるという仮説には肯定的であるが、図版Ⅶは母親を象徴する図版であるという仮説には否定的であることが示唆された。

#### 図版における形状と色彩の影響

ロールシャッハの無作為的図柄の中から父親図版あるいは母親図版を選択したり評定したりする場合、調査対象者は何を根拠にそのような反応をしているのであろうか。図版に対する父親・母親像の選択的評価には、図柄の形状や色彩あるいは濃淡などが関与していると考えられるが、特に母親イメージ図版が多彩色図版に集中する傾向があることから (Cole et al., 1969<sup>11)</sup>)、母親図版については形状よりも色彩が選択的評価に影響していると考えられる。他方、父親図版に関しては、父親一般像ではなく具体的な「私の」父親像に基づいて選択する際に、図版の物理的形態特徴に対してより sensitive になることも指摘されている (田中, 1984<sup>10)</sup>)。

これらのことを考慮すると、父親・母親の意味を象徴的に有する図版の選択において、父親イメージは図版の形と陰影の特徴を、母親イメージは陰影の色合いを基礎として行われていると仮定できる (坪井ら、2012<sup>6)</sup>)。

もし、父親図版の選択が主に形状に依存するならば、倒立した図版に対して異なる反応が予測される。同様に、母親図版の選択が色彩によるものならば、倒立した図版に対しても同じ反応が期待できる。これを証明するのが本研究の目的の1つである。

#### 父親・母親的人物に関するアタッチメント

図版に対する選択的評価が形状や色彩の影響を受けるのと同様に、養育者に対するアタッチメントの有無の影響も父親・母親図版の選択において考えなければならない。アタッチメントの対象は、家庭環境の違いによって左右されるものの、経験的事実として父母、特に母親であることが一般的である。私たちは空腹、疲労、時には病苦に苛まれた時、あるいは脅威に晒された時に愛着人物を求め、好んでその愛着人物の近くにとどまることを願い、愛情や理解、保護を望むものである (Bowlby, 1969<sup>14)</sup>)。

したがって、図版の知覚から誘発された快あるいは不快の感情を基に、その図版から父親・母親イメージを連想する場合、アタッチメントの影響は無視できないと考えられる。つまり、快の感情を誘発する図版に対して「好き」という情動が喚起され、それが父親あるいは母親へのアタッチメントと連合することで父親図版あるいは母親図版として選択される。逆に、不快感を誘発する図版に対して脅威や恐怖の感情が活性化され、それがすでに形成されたアタッチメントと拮抗することで、父親・母親図版としては不適合と見なされ、選択から外れることが予測される。この点を調べるのも本研究の目的の1つである。

#### 父親・母親図版の選択とロールシャッハ・テストの実施の有無

田中 (1984)<sup>10)</sup> は、父親・母親図版仮説の

検証を行った1950年から1981年までの14篇の研究論文における手続き、調査対象者、結果を比較している。その中で、実際にロールシャッハ・テストを実施した後に父親・母親図版を選択させる場合と、ロールシャッハ・テストそのものを実施しない場合との手続き上の違いを区別している。

福井ら (2011)<sup>13)</sup> は、ロールシャッハ・テストを予め施行することの理由に、父親・母親図版の選択に実際のテスト場面が反映されることを挙げている。しかし、選択的評価の発生を輪郭線の形状と色彩や濃淡などの相互作用の結果として生じる現象とみなすならば、ロールシャッハ・テストを実施することで生ずる父親および母親的人物のイメージは、検査の枠組み内から獲得した一連の作業に基づく反応により形成されたものであり、純粋に図版を知覚することで得られるものとは異なることも考えられる。つまり、思考の連続の中で生じたイメージを言語化することで新たな反応を呼び起こし、それが実際に記憶心像から検索される父親・母親像を歪めてしまう、あるいは検索そのものを阻止してしまう可能性もある。そこで、本研究ではロールシャッハ・テストを実施しないで父親・母親図版解釈仮説の妥当性を検討する。

#### 本研究の目的

本研究における目的は、父親・母親図版解釈仮説の妥当性を検討することである。その際、以下の3点を考慮しながら調査を進めていく。まず、図版を正立および倒立提示することで父親・母親図版の選択に違いが見られるか。次に、父親・母親図版の選択が一般の父親・母親のイメージに基づくものか、私の父親・母親のイメージによるものか。最後に、父親あるいは母親に対するアタッチメントが図版の選好に影響するか。

表 1. 正立および倒立提示による男女別図版得点

図版		I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X
正立	男性	2.88	2.94	3.69	1.56	2.75	2.75	3.63	3.94	3.75	3.25
	女性	2.36	3.39	3.57	1.64	3.61	3.04	3.75	3.68	3.64	3.46
倒立	男性	2.48	3.43	3.48	2.19	3.19	2.76	3.62	4.10	3.29	4.43
	女性	2.54	3.36	3.36	2.14	3.04	2.54	3.39	3.89	3.57	3.86

## 方 法

### 調査対象者

K 大学に所属する大学生96名（男性40名、女性56名）が本調査に参加した。調査対象者の平均年齢は、男性19.1歳、女性19.3歳であった。

### 調査時期および調査方法

2015年6月から7月に掛けて授業時間中に質問紙による調査を集団で実施した。なお、両親の離別・死別などにより、どちらか一方の親が不在であるために親のイメージが思い浮かばない学生は、調査対象外であることを理解してもらった。

調査参加者は、スクリーン上に順次提示されたロールシャッハ図版10枚について、それぞれ父親および母親イメージに関する質問紙に回答するように求められた。10枚の図版は、正立と倒立の2つの方法によって提示され、調査参加者は正立提示と倒立提示のいずれかに割り振られた。なお、質問紙は調査終了後にその場で回収した。

質問紙は、①父親・母親イメージの評定、②その評定は一般的な父親・母親か、あるいはあなたの父親・母親に基づくものか、③父親・母親イメージとして選択された図版を自身の父親・母親にあげるか否か、④父親・母親イメージとして選択した図版の好き嫌いの判断、の4項目から成っている（資料1参照）。特に、父親・母親イメージに関する質問項目については、父親または母親のどちらのイ

メージが強いかを「そう思う（父親的）」「ややそう思う（父親的）」「どちらともいえない」「ややそう思う（母親的）」「そう思う（母親的）」の5件法により回答を求め、それぞれの回答に対して、1点から5点までの得点をそれぞれ割り振った。つまり、父親のイメージが強いほど数字が小さく、母親のイメージが強いほど数字が大きくなるように得点化した。

### 倫理的配慮

調査対象者には、調査手順、匿名性について保証することを文書および口頭にて説明を行い、同意書への署名により意思を確認した。

## 結 果

父親および母親イメージに関する質問項目で、記入内容に誤りや記入漏れなどが見つかった調査対象者3名を分析から除外した。その結果、調査における有効回答者数は93名（男性37名、女性56名）で、平均年齢は男性19.1歳、女性19.3歳となった。また、いずれかの質問項目に対して回答拒否反応を示した調査対象者は0名であった。

### 図版 I ～ X における父親・母親イメージ得点による分析

表1に、男女別による正立提示図版 I ～ X および倒立提示図版 I ～ X の父親・母親イメージ得点の平均値を示す。

これらの得点の平均値の間に有意な差があ

るか調べるために、2（提示法：正立・倒立）×2（性差：男性・女性）×10（図版：I～X）の分散分析を行った。その結果、図版の主効果は有意であった（ $F(9, 801) = 30.22, p < .01$ ）が、提示法（ $F < 1$ ）および性差（ $F < 1$ ）の主効果は有意ではなかった。また、提示法と図版の交互作用は有意であった（ $F(9, 801) = 2.449, p < .01$ ）が、提示法と性差（ $F(1, 89) = 2.437, p > .05$ ）および性差と図版（ $F < 1$ ）の交互作用に有意性は見られなかった。さらに、提示法、性差、および図版の交互作用においても有意性は検出されなかった（ $F(9, 801) = 1.174, p > .05$ ）。

図版の主効果の有意性は、図版I～Xの父親・母親イメージ得点間に差があることを示している。さらに、得点「3」（どちらともいえない）に一番近い得点を示した図版V（3.19）を中立点と考え、それより得点がありに低い図版（父親図版）と有意に高い図版（母親図版）を調べた結果、図版IVとIが有意に低く（それぞれ Scheffe',  $p < .01$ ）、図版VIIIとXが有意に高い（それぞれ Scheffe',  $p < .01$ ）ことが分かった。

また、提示法と図版の交互作用は、図版IVおよびXの得点が倒立図版より正立図版の方で有意に低いことから生じている（図1

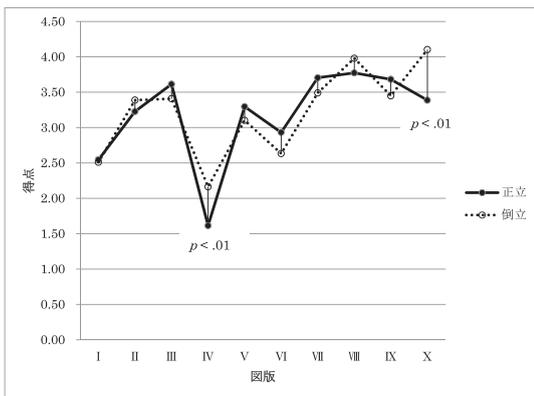


図1. 正立および倒立図版（I～X）の父親・母親イメージ得点

参照)。さらに調べてみると、正立提示の場合、得点「3」に一番近い図版VI（2.93）を中立点と考えると、それより有意に低いのが図版IV（Scheffe',  $p < .01$ ）で、それより高い得点の図版はなかった。倒立提示では、図版V（3.10）を中立点と考えると、それより有意に低いのが図版IV（Scheffe',  $p < .01$ ）、有意に高いのが図版VIIIおよびX（それぞれ Scheffe',  $p < .01$ ）であった。

### 図版I～Xにおける父親・母親イメージ度数による分析

図版I～Xに対する父親・母親イメージの評定値を、「父親」=1、「やや父親」=2、「どちらともいえない」=3、「やや母親」=4、「母親」=5と得点化して分散分析を行ったが、ここでは「父親」および「やや父親」と評定した図版を父親図版、「母親」および「やや母親」と評定した図版を母親図版として分類し、正立図版および倒立図版の中から父親および母親イメージ図版として選択される傾向に一定の偏りが見られるか調べた。なお、先の分散分析の結果、性差の主効果と性差×提示法、性差×図版、および性差×提示法×図版の交互作用が有意でなかったため、以後の分析において性差は含めないことにする。

正立図版における父親および母親イメージとして選択された図版の度数および割合(%)を表2に、倒立図版については表3に示す。

正立図版では、父親のイメージとして図版IVが最も選ばれ（選択率81.8%）、母親のイメージとして図版III（選択率68.1%）、図版VII（選択率65.9%）、図版VIII（選択率63.6%）が選ばれる傾向にあることが分かった。特に、父親イメージの選択率が60.0%以上あるのは図版IVだけなのに対して、母親イメージでは図版III、VII、VIIIの3つが選択率60.0%以上であった。

表2. 正立図版における父親及び母親イメージ図版の選択

	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	計
父親的	25 56.8%	14 31.8%	8 18.1%	<u>36</u> 81.8%	9 20.4%	15 34.0%	7 15.9%	5 11.3%	10 22.7%	14 31.8%	44 100%
母親的	9 20.4%	21 47.7%	<u>31</u> 68.1%	1 2.2%	21 47.7%	12 27.2%	<u>29</u> 65.9%	<u>28</u> 63.6%	25 56.8%	22 50.0%	44 100%
無	10 22.7%	9 20.4%	6 13.6%	7 15.9%	14 31.8%	17 38.6%	8 18.1%	11 25.0%	9 20.4%	8 18.1%	44 100%

注) 上段は度数、下段はパーセンテージを示す。

表3. 倒立図版における父親及び母親イメージ図版の選択

	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	計
父親的	24 49.0%	10 20.4%	11 22.4%	<u>30</u> 61.2%	14 28.5%	20 40.8%	7 14.2%	5 10.2%	12 24.4%	3 6.1%	49 100%
母親的	9 18.3%	22 44.8%	25 44.8%	1 2.0%	19 38.7%	7 14.2%	25 51.0%	<u>33</u> 67.3%	26 53.0%	<u>36</u> 73.4%	49 100%
無	16 32.6%	17 34.6%	14 28.5%	18 36.7%	16 32.6%	22 44.8%	17 34.6%	11 22.4%	11 22.4%	10 20.4%	49 100%

注) 上段は度数、下段はパーセンテージを示す。

倒立図版では、父親のイメージとして図版IVが最も選択され（選択率61.2%）、母親のイメージとして図版VIII（選択率67.3%）、図版X（選択率73.4%）が選ばれる傾向にあることが分かった。なお、父親イメージの選択率が60.0%以上あるのは図版IVだけであるのに対し、母親イメージでは図版VIII、Xの2つが選択率60.0%以上であった。

提示法による父親図版および母親図版の選択に有意な偏りがあるか調べるために、2（提示法）×10（図版）の $\chi^2$ 検定をそれぞれ行った結果、提示法の間で父親図版（ $\chi^2(9)=10.64, p=.301$ ）および母親図版（ $\chi^2(9)=6.38, p=.701$ ）のそれぞれの選択の偏りに有意差は見られなかった。

これらの選択傾向から、正立図版および倒立図版における図版IVは、他の図版よりも父親のイメージとして選択される傾向が顕著であることが確認できた。しかし、母親イメー

ジの場合、正立では図版III、VII、VIII、倒立では図版VIII、Xと、図版の向きによって選択される図版が多少異なるものの、その偏りは有意ではなかった。

#### 正立図版および倒立図版から連想される父親および母親の人物の想起傾向（一般的な父親・母親、あなたの父親・母親）

正立図版および倒立図版の絵柄から連想される父親および母親イメージの想起方法に一定の偏りが見られるか調べた。正立図版における「一般的な」父親・母親および「あなたの」父親・母親として選択された図版の度数および割合（%）を表4に、倒立図版については表5に示した。

正立図版において、一般的な父親のイメージとして図版IVが最も多く選択され（選択率59.0%）、次いで図版Iが選ばれる傾向にあった（選択率36.3%）。また、あなたの父親のイ

表4. 正立図版における親イメージの分類

		I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	計
父親図版	A	16 36.3%	7 15.9%	5 11.3%	<u>26</u> 59.0%	5 11.3%	7 15.9%	3 6.8%	2 4.5%	8 18.1%	11 25.0%	44 100%
	B	9 20.4%	7 15.9%	3 6.8%	10 22.7%	4 9.0%	8 18.1%	4 9.0%	3 6.8%	2 4.5%	3 6.8%	44 100%
母親図版	A	6 13.6%	10 22.7%	<u>23</u> 52.2%	1 2.2%	13 29.5%	7 15.9%	16 36.3%	<u>22</u> 50.0%	17 38.6%	14 31.8%	44 100%
	B	3 6.8%	11 25.0%	7 15.9%	0 0.0%	8 18.1%	5 11.3%	13 29.5%	6 13.6%	8 18.1%	8 18.1%	44 100%
無		10 22.7%	9 20.4%	6 13.6%	7 15.9%	14 31.8%	17 38.6%	8 18.1%	11 25.0%	9 20.4%	8 18.1%	44 100%

注) A:一般的な親として選択された図版。B:あなたの親として選択された図版。上段は度数、下段はパーセンテージを示す。無:どちらともいえないとして選択された度数

表5. 倒立図版における親イメージの分類

		I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	計
父親図版	A	15 30.6%	4 8.1%	9 18.3%	18 36.7%	9 18.3%	12 24.4%	3 6.1%	4 8.1%	7 14.2%	2 4.0%	49 100%
	B	9 18.3%	6 12.2%	2 4.0%	12 24.4%	5 10.2%	8 16.3%	4 8.1%	1 2.0%	5 10.2%	1 2.0%	49 100%
母親図版	A	4 8.1%	17 34.6%	16 32.6%	0 0.0%	10 20.4%	3 6.1%	16 32.6%	<u>25</u> 51.0%	18 36.7%	<u>22</u> 44.8%	49 100%
	B	5 10.2%	5 10.2%	9 18.3%	1 2.0%	9 18.3%	4 8.1%	9 18.3%	8 16.3%	8 16.3%	14 28.5%	49 100%
無		16 32.6%	17 34.6%	14 28.5%	18 36.7%	16 32.6%	22 44.8%	17 34.6%	11 22.4%	11 22.4%	10 20.4%	49 100%

注) A:一般的な親として選択された図版。B:あなたの親として選択された図版。上段は度数、下段はパーセンテージを示す。無:どちらともいえないとして選択された度数

イメージとして選択された図版は複数あり、目立った偏りは確認できなかった。他方、一般的な母親のイメージとして図版Ⅲが最も多く選択され(選択率52.2%)、次いで図版Ⅷが選ばれた(選択率50.0%)。あなたの母親のイメージとして選択された複数の図版についても目立った偏りは確認できなかった。なお、一般的な父親のイメージとして選択率が50.0%以上のものは図版Ⅳだけであるのに対して、一般的な母親のイメージの場合は図版Ⅲおよび

Ⅷの2つであった。これらの結果から、あなたの父親・母親のイメージよりも、一般的な父親・母親のイメージのほうが想起されやすい傾向にあることが分かった。特に、一般的な父親のイメージとして選ばれた図版Ⅳ、一般的な母親のイメージとして選ばれた図版Ⅲのどちらとも「無」反応(どちらともいえない)の選択率が最も低いことから、これらの図版から一般的な父親・母親のイメージが思い浮かべやすいことが確認できた。

表6. 正立図版における同姓にあげるとして選択された図版の度数

		I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	計
父親的	A	7	3	3	7	2	4	4	2	4	5	44
		15.9%	6.8%	6.8%	15.9%	4.5%	9.0%	9.0%	4.5%	9.0%	11.3%	100%
母親的	B	13	9	3	<u>24</u>	6	10	2	1	5	4	44
		29.5%	20.4%	6.8%	54.5%	13.6%	22.7%	4.5%	2.2%	11.3%	9.0%	100%
父親的	A	6	9	16	0	6	6	<u>21</u>	<u>19</u>	16	14	44
		12.6%	20.4%	36.3%	0.0%	13.6%	13.6%	47.7%	43.1%	36.3%	31.8%	100%
母親的	B	1	7	11	1	10	3	7	6	5	6	44
		2.2%	15.9%	25.0%	2.2%	22.7%	6.8%	15.9%	13.6%	11.3%	13.6%	100%

注) A:好きな絵柄として選択された図版。B:嫌いな絵柄として選択された図版。上段は度数、下段はパーセンテージを示す。

表7. 倒立図版における同姓にあげるとして選択された図版の度数

		I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	計
父親的	A	10	2	5	12	1	5	2	3	3	3	49
		20.4%	4.0%	10.2%	24.4%	2.0%	10.2%	4.0%	6.1%	6.1%	6.1%	100%
母親的	B	7	7	5	<u>18</u>	12	14	4	1	3	0	49
		14.2%	14.2%	10.2%	36.7%	24.4%	28.5%	8.1%	2.0%	6.1%	0.0%	100%
父親的	A	3	8	11	0	6	4	13	<u>22</u>	18	30	49
		6.1%	16.3%	22.4%	0.0%	12.2%	8.1%	26.5%	44.8%	36.7%	61.2%	100%
母親的	B	3	10	10	1	10	3	9	11	7	5	49
		6.1%	20.4%	20.4%	2.0%	20.4%	6.1%	18.3%	22.4%	14.2%	10.2%	100%

注) A:好きな絵柄として選択された図版。B:嫌いな絵柄として選択された図版。上段は度、下段はパーセンテージを示す。

一方、倒立図版において一般的な父親のイメージとして選択された複数の図版に関して目立った偏りは確認できなかった。また、あなたの父親のイメージとして選択された複数の図版についても同様の結果が得られた。さらに、一般的な母親のイメージとして図版VIIIが最も多く選択され（選択率51.0%）、次いで、図版Xが選ばれた（選択率44.8%）。あなたの母親のイメージとして選択された複数の図版については目立った選択傾向は確認できなかった。なお、一般的な父親のイメージとして選択率が50.0%以上の図版は無かったのに対し、一般的な母親のイメージとして選択率が50.0%以上のものは図版VIIIのみであった。

これらの結果から、あなたの父親・母親のイメージよりも、一般的な父親・母親のイメージのほうが連想されやすい傾向にあることが分かり、同時に、「無」反応としての図版の選択率が正立図版より高い傾向にあった。また、一般的な母親のイメージとして図版VIIIが思い浮かべやすい図版であることも確認できた。

#### 正立図版および倒立図版から連想される父親および母親の人物に対する選好と拒否

正立図版および倒立図版から連想される父親および母親イメージの選択における選好と拒否に一定の偏りが見られるか調べた。正立

図版における父親および母親イメージの選択における選好と拒否の度数および割合(%)を表6に、倒立図版については表7に示した。

正立図版においては、好きな絵柄として選択した父親図版を父親にあげるといった特徴的な選択傾向は確認できなかった。しかし、男女を含む44人中24人の調査対象者は、嫌いな絵柄として選択した父親イメージの図版Ⅳを父親にあげると答えた(選択率54.5%)。さらに、男女を含む44人中21人の調査対象者は、好きな絵柄として選択した母親イメージの図版Ⅶ(選択率47.7%)を、次いで19人が図版Ⅷ(選択率43.1%)を母親にあげることが分った。嫌いな絵柄として選択した母親イメージの図版に対しては、特に目立った偏りは確認できなかった。

倒立図版においては、好きな絵柄として選択した父親図版を父親にあげたり、嫌いな絵柄として選択した父親図版を父親にあげたりする傾向はあまり見られなかった。ただし、男女を含む49人中30人の調査対象者は、好きな絵柄として選択した母親イメージの図版Ⅹを母親にあげる傾向があった(選択率61.2%)。嫌いな絵柄として選択した母親イメージの図版を母親にあげる傾向は余り得られなかった。

## 考 察

本研究では、ロールシャッハ・テストを実際に行うことなしに“父親および母親の人物”に関する選択的評価の発生について検討することを目的とした。

まず、図版の提示法の違いが父親・母親図版の選好に影響を及ぼすかどうかについて調べた結果、父親図版については正立・倒立提示にかかわらず図版Ⅳが選択される傾向が見出され、父親図版仮説を支持するものとなっ

た。黒味の強い執拗なまでの圧迫感を与える三角形の形状が、正立・倒立による提示法の違いにかかわらず威圧的な印象を与えることから父親図版として選択されたと考えられる。また、母親図版ではデータ分析の仕方によって結果が多少異なるものの提示法の違いによる選好の偏りが見られた。その中でも図版Ⅶよりも図版ⅧおよびⅩの方が選択される傾向があり、母親図版仮説に対してはやや否定的な結果となった。これはCole and Williams (1968)<sup>15)</sup>で得られた調査結果と一致する。図版ⅧおよびⅩの持つ明るい色彩や濃淡などが影響しているものと思われる。

また、父親図版において提示法による違いがほとんど見られなかったという結果は、図版選択が形状そのものに依存しているというよりも、図版そのものから醸し出されるイメージによって影響を受けることが示唆される。逆に母親図版については、図版の持つ陰影による色合いの違いだけではなく図柄の形状も選好に影響している可能性も指摘できる。

次に、父親・母親図版の選択には「一般の」父親・母親のイメージに基づくものに偏りが見られ、父親図版として図版Ⅳ、母親図版として図版Ⅲ、ⅧあるいはⅩが選好された。他方、「あなたの」父親・母親のイメージによる選択については顕著な偏りは見いだされなかった。これは田中(1960<sup>9)</sup>, 1984<sup>10)</sup>の調査結果を支持している。自分自身の父親・母親に対するイメージは具体的で固定されたものであって、「あれか」「これか」のように少しでも図版から生ずるイメージと異なると否定的になる。しかし、一般の父親・母親から得られるイメージが「あれも」「これも」のように最大公約数的に選択的評価に適用され、ある特定の図版に対してオーバーラップする所があれば、父親・母親のイメージとし

て形成されやすくなるのではないか。

最後に、父親あるいは母親に対するアタッチメントが図版の選好に影響するか調べた。自分の好きな図版を父親あるいは母親にあげたいという欲求の根底にはアタッチメントの形成がある。このアタッチメントが父親・母親図版の選好に影響すると考えられる。父親図版として選択された図版Ⅳに対し「嫌い」と答え、それを父親にあげることを選択した者が54.5%も存在するという本結果は、父親とのアタッチメントの形成に何らかの障害がある、あるいは父親に対するアンビバレントな感情が存在することを示唆する。反対に、母親図版として選択した好きな図版を母親にあげたいと回答した者は、図版Ⅶ、Ⅷ、Ⅹに関してほぼ半数、あるいは半数以上であり、この選好には母親に対するアタッチメントの影響が窺える。

## 引用文献

- 1) 道又爾、北崎充晃、大久保街亜、今井久登、山川恵子、黒沢学：認知心理学－知のアーキテクチャを探る－ 有斐閣アルマ、2011
- 2) Bochner, R., & Halpern, F.: *The clinical application of the Rorschach test*. 2nd ed. New York: Grune & Stratton, 1945
- 3) Meer, B., & Singer, J. L.: *A note on the "father" and "mother" cards in the Rorschach inkblots*. *Journal of Consulting Psychology*, 14, 483-484, 1950
- 4) 村上英治：ロールシャッハ・テストにおける人間関係に関する研究（1）——「父親カード」と「母親カード」の分析—— 名古屋大学教養部紀要、2、1-10、1957
- 5) Rosen, E.: *Symbolic meanings in Rorschach cards: A statistical study*. *Journal of Clinical Psychology*, 7, 239-244, 1951
- 6) 坪井裕子、松本真理子、鈴木伸子、畠垣智恵、白井博美、森田美弥子：子どものロールシャッハ法における父親・母親イメージ図版の検討、人間と環境、2、1-9、2012
- 7) Charen, S.: *Pitfalls in interpretation of parental symbolism in Rorschach cards IV and VII*. *Journal of Consulting Psychology*, 21, 52-56, 1957
- 8) Thakur, G. P., & Thakur, M.: *Symbolic meanings of Rorschach cards II, IV and VII*. *Perceptual and Motor Skills*, 32, 190, 1971
- 9) 田中富士夫：ロールシャッハ・カードの象徴的意義——“父親カード”と“母親カード”の問題をめぐって—— ロールシャッハ研究、3、171-185、1960
- 10) 田中富士夫：ロールシャッハ・テストにおける父親・母親カード仮説の諸問題 金沢大学文学部論集 行動科学科篇、4、1-11、1984
- 11) Cole, S., Williams, R. L., & Moore, C. H.: *Parental interpretation of Rorschach cards IV and VII among adjusted and maladjusted subjects*. *Journal of General Psychology*, 81, 131-135, 1969
- 12) 福井義一、三宅由晃、岡崎剛、森津誠、遠山敏、山下景子、岡田信吾、安藤治：ロールシャッハ・テストの父親・母親図版解釈仮説の妥当性に関する研究－図版評定法を用いて－、心理臨床研究、26(5) 549-558、2008
- 13) 福井義一、三宅由晃、岡崎剛、森津誠、遠山敏、山下景子、岡田信吾：ロールシャッハ・テストの父親・母親図版解釈仮説の図版選択法による検討、心理学研究、82(3) 249-256、2011

14) Bowlby, J.: *Attachment and loss. Vol. 1. Attachment.* New York: BasicBooks, 1969.  
 15) Cole, S., & Williams, R. L.: *Age as a*

*determinant of parental interpretation of Rorschach cards IV and VII.* *Perceptual and Motor Skills*, 26, 55-58, 1968

資料 1

性別：男、女      年齢： 歳

10 枚の画像をお見せします。画像の特徴（形や色）から何を連想しますか？ 何も連想出来ないという方もいれば、人や動物、または風景を連想するという方も多いことだろうと思います。本調査では、左右対称の画像から「父親のイメージ」と「母親のイメージ」を思い浮かべて頂きます。画像の特徴から「父親らしさ」や「母親らしさ」を感じるようであれば、イメージの強い方を解答欄に記入して下さい。画像は父親と母親のイメージと直接の関係はありません。いろいろな角度から自由に見て頂いても構いません。ご回答の程よろしくお願い致します。

- ① それぞれの画像は、父親と母親どちらのイメージが強いですか？
- ② ①で選んだ画像は、一般的な父親または母親をイメージしましたか？ それともあなたの父親または母親をイメージしましたか？
- ③ ①で選んだ画像を、父親または母親にあげるとしたら、父親と母親どちらにあげますか？
- ④ ①で選んだ画像を、好きな画像と嫌いな画像に分けてください。

	(父親的)	(母親的)				
	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )
	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )
	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )
	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )
	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )
	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )
	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )
	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )
	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )
I	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )
II	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )
III	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )
IV	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )
V	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )
VI	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )
VII	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )
VIII	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )
IX	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )
X	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )	( 2 1 0 1 2 )